



▲当面の闘争方針は満場一致で確認された(第10回中央委員会)

第10回中央委員会

この間の取組みにより今期も多くの区で新規採用を勝ち取る!! この勢いを止めることなく、運動の前進をはかろう!!

1月23日(水)、SKホールにて第10回中央委員会を開催し、「2019年春闘期を中心とした当面の闘争方針」および「2019年統一自治体選挙を闘う政啓方針」を満場一致で確認しました。

自治研活動を中心とした様々な取組みによって、今年度は区移管以降、最高数の採用を勝ち取っています。この勢いを止めることなく運動の前進を図るため、確立された当面の闘争方針に基づき、全組合員の総力をあげて取組みましょう。

確認された「2019年春闘期を中心とした当面の闘争方針」は、民間の春闘に連帯し、成果を我われの秋季賃金確定闘争に繋げることはもちろんのこと、各区交渉事項の共有化や統一的な闘い方についても取組みを提起しています。また、第85回大会から各区・一組担当中央執行委員は交渉を中心とする体制としました。とりわけ予算・人員要求闘争を当局の予算編成スケジュールに遅れることなく進めること、そして次年度へ向けしっかりと総括を行い、闘いに繋げることなどを具体的に方針化してい



▲昨年3月の国会前行動(衆院第二会館前)

「2019年統一自治体選挙を闘う政啓方針」も確認しました。今年度は4月に統一地方自治体選挙、7月には参議院議員選挙が予定されています。とりわけ、参議院議員選挙では、この間の総務省に対する取組みでも分かるように、現場の声を



▲昨年4月の新入組合員歓迎学習交流集会

が組合としても、最重要課題は人員確保であることを再認識し、年間を通して取組みを進めていきます。具体的には、例年どおり5月中に各区・一組にて一斉に正規職員採用を求める要請を実施し、第二次交渉ゾーンとして10月にも同様の取組みを実施していきます。そして、世界を巡る動きはもちろんのこと、安倍政権が目論む動き「働き方改革をはじめとする労働法制の破壊」、「自治体職場における現業職員の役割」、「外国人労働者の劣悪な労働環



境を温存・拡大する出入国管理法の改正」、「水道民営化を促進する水道法の改正」、「沖繩の歴史と新基地建設反対の闘い」など、自治体サービスの産業化、労働者と家族の生きる権利さえも奪おうとする安倍政権との闘いを強化するため、今年も春闘連続講座を開催し、全体で情勢の共有化を図ります。



▲昨年の第2回春闘労働講座で駆けつけていただいた参議院選挙組織内候補の「岸まきこ」氏

直接国会へ反映させることができ、自治労組織内候補「岸まきこ」氏の必勝が重要であります。自治労ストライキ批准投票を圧倒的高批准で確立し、単組東京清掃労働組合のスケールメリットを活かしながら、春闘期から統一的な闘争を展開して、賃金・労働条件の向上にむけてまいりましょう。(企画・総務局 渡辺 歩)



東京清掃労働組合
千代田区飯田橋3-9-3
TEL (3237) 9995
1部20円

編集責任
企画・総務局
田口 康乗

わが組合の綱領

- 一、われわれは健全なる自主的組織を確立し、生活諸条件を確保し、社会的地位の向上を期す。
- 二、われわれは労働の社会的意義を顕揚し、都区政の徹底的民主化を期す。
- 三、われわれは労働者階級の解放と民主主義日本を建設し、世界平和に貢献せんことを期す。

「2019年春闘期を中心とした当面の闘争方針」に基づく当面の日程

- 各地連春闘討論集会(3月中から順に開催予定)
- 春闘連続講座(演題は全て仮)
 - ① 2月5日(火)「ヨーロッパを追われた水メジャーが日本を狙う水道民営化」 奈須 りえ/大田区議会議員
 - ② 2月19日(火)「労働組合が政治闘争を取組む意義」 座光寺 成夫/都本部中央執行委員長
 - ③ 3月8日(金)「出入国管理法の改正 外国人労働者の今後」 指宿 昭一/弁護士
- 新入組合員歓迎学習交流集会 4月下旬
- 第44回組織集会 6月2日(予定)
- 第56年次自治研集会 12月1日(予定)

立憲民主党参議院比例第13総支部長

「岸まきこ」とともに

自治労の政策要求を実現しよう!

自治労は、第25回参議院選挙の全国比例区に「岸まきこ」さん(特別中央執行委員・組織対策担当)の擁立を決定しました。

岸まきこ(岸 真紀子)プロフィール
1976年北海道岩見沢市(旧栗沢町)生まれ。94年旧栗沢町役場入職(現岩見沢市)。2013年から自治労中央執行委員。現職に至る。

インターネットで、「岸まきこ」を検索してください。
kishimakiko.com/

岸まきこ 検索

立憲民主党

- ◆ 平和な社会の実現を。
- ◆ 格差のない持続可能な社会を。
- ◆ 再生可能エネルギーで地方に活力を。
- ◆ 全世代が安心して暮らせる社会保障制度の確立を。
- ◆ 男女がともに活躍できる社会を。
- ◆ 質の高い公共サービスの持続的な提供を。

付加価値は現状のままではよいのか？ さらに発展させることはできないのか？

2019 現業活動者集会を開催

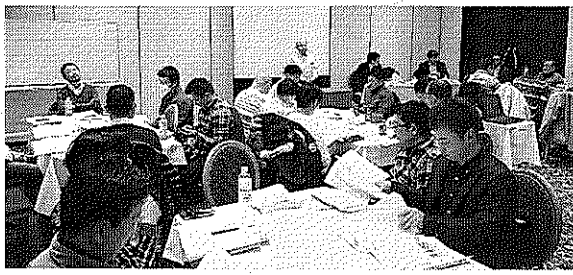
関東甲地連現評

自治労関東甲地連が1月26日(土)から27日(日)にかけて、千葉県鴨川市鴨川グランドホテルにて現業活動者集会を開催。わが組合からも都本部現評清掃部会メンバーを中心に8名で参加してきました。



▲集会には8都県本部297名が参加

自治労関東甲地連が1月26日(土)から27日(日)にかけて、千葉県鴨川市鴨川グランドホテルにて現業活動者集会を開催。わが組合からも都本部現評清掃部会メンバーを中心に8名で参加してきました。



▲職種別分散会で熱弁を奮う坂本部長

現業労働者の課題」について、次に大東文化大学の藤井准教授から「現業職員の創造する価値」について講演いただきました。

講演後に開催した職種別分科会では、5グループに分かれて「清掃労働者としての誇りを持って採用にむけ、新たな職域への挑戦」をテーマとし、「付加価値は現状のままではよいのか？さらに発展させることはできないのか？」を中心に各単組から取り組みの報告を受けながら討論を展開しました。わが組合としても今後の運動に充分繋がるグループ討論となりました。

清掃労働者をめぐる情勢を踏まえ、清掃職場の生き残りをつけて自らの職場で何をすべきなのか？どうすれば必要とされ、区民議会(会)を味方につけることができるのか？一見労働強化になると捉えがちですが、現状の業務内容に付加価値をつけることによって、新たな職域を拡大していく必要が今の清掃事業にはあります。また、「職の確立」

によって現場職員の必要性を明確に示すとともに、地域の環境保全と廃棄物行政発展のために新規採用の獲得が必要不可欠です。

我われは「区民に納得や理解をしてもらえる仕事」「質の高い公共サービスの提供」の確立を追求します。

区民生活をより安全で豊かなものにするため、労働組合が自治体の政策提言に積極的かつ真剣に取組めば、区民が労働組合に対する一番の理解者になるからです。そして、そのような区民との信頼関係により、直営による執行体制が最も有

意義だと社会的にも認められると思えます。そのためには、自らが各区の施策・立案に携わり、予算要求に

反映させ、政策課題の実現を求めているかなければなりません。

この間の新規採用を巡る、総務省に対するわが組合の取組みが全国的にも評価されています。自信と誇りを持って、各区で新規採用が獲得できるよう運動展開をしていきましょう。

(企画・総務局 渡辺 歩)

民意を無視する新基地建設を許さない！

自治労東京都本部2018 沖縄派遣団に参加



▲応援に駆けつけた玉城沖縄県知事(中央)

民意を無視する基地建設を許さない！自治労東京都本部2018 沖縄派遣団に12月14日〜16日まで東京清掃より3名(全体で10名)で参加してまいりました。

一日目は、旧海軍司令部豪と道の駅「かでな」より広大な嘉手納基地を見学し、当時の悲惨で壮絶な戦いの様子と戦闘機による騒音問題等近隣に暮らす人たちの苦勞が伺えました。

座込み中、玉城沖縄県知事から激励のあいさつを受け、「辺野古基地建設」反対を再確認しました。その後ひめゆりの塔、平和



▲「新基地建設はいらない」コールを繰り返すデモ隊

二日目は、辺野古キャンブ・シユフゲート前にて地元参加者とともに座込み行動と抗議行動を行いました。

三日目の解散式では、今回の貴重な体験を各単組、職場に持ち帰り、沖縄の闘いの支援を広げていくことを確認しました。

(組織共闘局 倉貫 克志)

新書記紹介

門田書記から

ひとつ

前書記である前田さんの急遽の退職を受け、新たにこの1月から東京清掃本部の常任書記として採用されました。我われとしても、今後の門田さんのご活躍に期待していきます。組合員の皆様も東京清掃本部へお越しの際は、お声かけください。

存在の意義を痛感しました。新米書記でなく、分らないことだらけですが、微力ながらも組合と組合員の皆様のお手伝いが出たららと思っておりますので、よろしくお願いたします。

(常任書記 門田温)



▲新米書記 門田温



ある全国集会に参加した若い組合員がこんな感想を述べていた。「採用されて間もないのに、精神疾患等で職場を去ることにショックを受けた。採用者を受け入れる環境が整わない中で、果たして新規採用する必要はあるのか」と。

運動の観点で仲間作りを進めるにあたり、あまりに単純明快で重要な感性であると思う。というのも、職場環境の突合せから人員不足を解消すべく新規採用を要求するのは良いが、単に「採用の獲得が目標」となるとは、それは採用者ただの「数」としか見ていないことと同じであり、それでは「職場のことについて考えていこう」という感覚になるはずがない。

「仕事だから」組合だからなどの勝手な線引きによって、結果的に自らが運動を萎縮させてしまっていることはないだろうか。同じ働く仲間として、また一人の人間として、となりの仲間と関わりを持つことが一人らしく働き、一人らしく生きる」という観点につながり、さらには、闘いへと共に立ち上がる仲間をつくるものと確信している。

(大田区担当中央執行委員 高橋 正幸)